



九月(小) 長月 觜宿

九月七日白露の節より
月命乙酉一白水星の月
晴剣殺北の方

旧七月小
旧八月大

日	曜日	干支	九星	行事	行	旧曆六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	火	ひのとひつじ	二黒	防災の日、関東大震災記念日、富山八尾風の盆(3日迄)	旧七月小	十四	友引	とづ	尾	神よし	5.13	17.59	3.48
2日	水	つちのえさる	一白	○望一四時二二分、旧ぼん、天しゃ		十五	先負	たつ	箕	よろづよし	5.14	18.07	4.48
3日	木	つちのとり	九紫			十六	佛滅	のぞく	斗	十し	5.14	18.06	4.30
4日	金	かえいぬ	八白	敦賀気比神宮祭		十七	大安	みつ	牛	百事吉	5.15	18.04	6.44
5日	土	かのと	七赤	三隣亡		十八	赤口	たいら	女	大みやう	5.16	18.03	7.40
6日	日	みづのえね	六白	東京バラリンピック閉会式、八せん始め、一粒万倍日、不成就日		十九	先勝	さだん	虚	天おん	5.17	18.01	8.35
7日	月	みづのとうし	五黄	白露一三時〇八分		廿	友引	さだん	危	天おん	5.18	18.00	9.31
8日	火	きえのとら	四緑	太田呑竜開山忌、三隣亡		廿一	先負	とる	室	きこ	5.18	18.00	10.27
9日	水	きのと	三碧	重陽、多賀大社九月古例祭、救急の日、一粒万倍日		廿二	佛滅	やぶる	壁	くゑ日	5.19	17.57	11.24
10日	木	ひのえ	二黒	○下弦一八時二六分、二百二十日		廿三	大安	あやぶ	奎	大みやう	5.20	17.56	12.23
11日	金	ひのと	一白	東京芝大神宮しよが市(21日迄)、旧地蔵ぼん		廿四	赤口	なる	婁	十し	5.21	17.54	13.21
12日	土	つちのえうま	九紫	福岡宮崎宮放生会(18日迄)		廿五	先勝	おさん	胃	めつもん	5.21	17.53	14.17
13日	日	つちのひび	八白	世界の法の日		廿六	友引	ひらく	昴	●	5.22	17.51	15.10
14日	月	かえさる	七赤	庚申、一粒万倍日、不成就日		廿七	先負	とづ	畢	大みやう	5.23	17.50	16.07

残暑はまだまだ厳しいが、それでも月半ばを過ぎると朝夕涼感を感じよう。この季節、夏場の疲れが表面化したり、暑さのために消化器系統が弱っていたり、とかく健康を害しやすいため、健康管理に十分に留意しないと、思わぬ重病になることがある。

また立春から数えた「二百十日」や「二百二十日」があるが、これは農作(稲の開花期)と台風の関係を表している、注意を喚起するようになったわが国独特の呼称である。

【冠】九月九日は五節句の最後「重陽(九)という数字を陽数とした陰陽術による)の節句」という。またの名を「菊の節句」と呼ぶように、この日は酒に菊花をひたして飲み、健康長寿を祝うならわしも伝えられている。

【婚】この月から秋の結婚シーズンが始まる。挙式に続く新婚旅行にも快適な気候である。ただ、それだけ

15日	火	かのと	六白	老人の日、老人週間(21日迄)、京都石清水八幡宮祭		廿八	佛滅	たつ	觜	大みやう	5.24	17.48	16.42
16日	水	みづのえいぬ	五黄	鎌倉鶴岡八幡宮やぶさめ		廿九	大安	のぞく	参	母倉	5.24	17.47	17.21
17日	木	みづのと	四緑	●朔二〇時〇〇分、旧八朔、八せん終り、旧八月大		朔	友引	みつ	井	ぢう日	5.25	17.45	18.18
18日	金	きえのと	三碧	二日灸、甲子、不成就日		二	先負	たいら	鬼	天おん	5.25	17.44	19.06
19日	土	きのと	二黒	彼岸入り、岸和田だんじり祭、若手水沢駒形祭、子規忌		三	佛滅	さだん	柳	百事吉	5.26	17.42	19.96
20日	日	ひのえ	一白	空の日、動物愛護週間(26日迄)、神奈川寒川神社例祭、三隣亡		四	大安	とる	星	天おん	5.27	17.41	20.19
21日	月	ひのと	九紫	○敬老の日、一粒万倍日、秋の全国交通安全運動(30日迄)		五	赤口	やぶる	張	天おん	5.28	17.40	20.93
22日	火	つちのえ	八白	秋分の日、秋分二二時三一分、彼岸中日、社日		六	先勝	あやぶ	翼	天おん	5.28	17.38	21.50
23日	水	つちのと	七赤	川柳忌、己巳		七	友引	なる	軫	十し	5.29	17.38	22.43
24日	木	かえうま	六白	●上弦一〇時五五分、結核予防週間、大つち		八	先負	おさん	角	月とく	5.30	17.37	23.40
25日	金	かのとひつじ	五黄	彼岸明け		九	佛滅	ひらく	亢	●	5.30	17.35	24.30
26日	土	みづのえさる	四緑	和歌山日前・国懸祭、一粒万倍日、不成就日		十	大安	とづ	氐	神よし	5.31	17.34	25.23
27日	日	みづのとり	三碧	小田原道了尊大祭		十一	赤口	たつ	房	大みやう	5.32	17.32	26.16
28日	月	きえいぬ	二黒			十二	先勝	のぞく	心	母倉	5.33	17.31	27.09
29日	火	きのと	一白	曹洞宗両祖忌		十三	友引	みつ	尾	月とく	5.34	17.29	28.02
30日	水	ひのえ	九紫			十四	先負	たいら	箕	大くわ	5.35	17.28	28.55

くても心労が重なった直後だけに、ハードなスケジュールには極力避け、一生の思い出にぜひ心楽しい旅行を持ちたいものである。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「秋分の日」を中心とした七日間が秋のお彼岸である。先祖に感謝し精霊の供養や墓前の香華の手向け等を行う。暑さ寒さも越えたものといえよう。

【祭】九月一日は「防災の日」これは大正十二年のこの日関東一円を襲った大地震によって、未曾有(みぞう)の災害が出たために、災害の怖さを銘記するように定められた日である。旧暦八月十五日は「十五夜」の望月である。これを仲秋の名月というのは、七月を初秋、八月を仲秋、九月を晩秋といひ、その八月の十五夜が満月だからである。

「敬老の日」九月第三月曜日(平成十五年施行)。社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日。また十五日から二十一日までは老人週間(平成十四年施行)である。

※昼夜の長さがほとんど等しくなるのは、日本では春分から三日間、秋分から三日後である。